

観点別 S T 分析ソフト

操作マニュアル

=== Ver.2 ===

目次

目次.....	1
1. 観点別 ST 分析について.....	1
2. このソフトでできること.....	2
3. マクロの設定について.....	4
4. 観点別 ST 分析ソフトの操作について.....	5

1. 観点別 ST 分析について

観点別 ST 授業分析とは

授業中に出現する児童・生徒〔S〕の行動（言語活動，非言語活動）と教師〔T〕の行動（言語活動，非言語活動）の2つのカテゴリーを，それぞれ下記の表のような5つの観点（その他を含む）で観察者が判断し，授業中の児童・生徒と教師の行動関係がどのように現れているかを分析するものである。

また，この観点別ST授業分析ソフトによって描かれた折れ線グラフや円グラフ等だけを見て授業を分析したり，授業後の討議会を行ったりするのではなく，授業記録等を活用するなどして，授業後の討議会がより深まることを期待して作成されたものである。

S-T活動別分析の観点

S…主に児童・生徒の活動		端的に表現すると…
S1	ひとりで考えている(思考・表現)	一人での思考場面
S2	自分の考えたことを発表・交流している	考えの発表・交流場面
S3	一問一答で答えている	一問一答
S4	音読・実験・実習・演技	音読・実験等
S5	その他(上記と判断できない場合)	その他

T…主に指導者の活動		端的に表現すると…
T1	課題に沿い、思考を促す発問	思考を促す発問
T2	子どもの考えをつなぐ発言・発問 机間指導はS1(自分で考えている場面)で対応	支援・助言等
T3	解説・説明・指示等	解説・説明・指示等
T4	板書・範読・模範演技・教師実験等	板書・範読等模範
T5	その他(上記と判断できない場合) 授業規律に関する注意等はこれに含む	その他

2. このソフトでできること

- ① 授業を参観しながら、観点の変化に合わせてボタンを押していただくだけで、必要に応じたグラフや表を作成することができる。

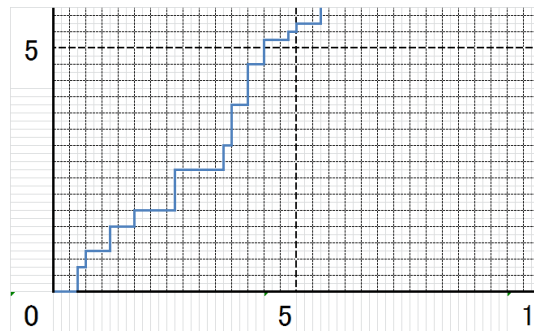
S-T分析 記録票	
日時	平成〇年〇月〇日
学校名	〇市立〇学校
クラス	〇年〇組
教員	〇先生
教科	〇科
単元	〇〇(△時/全口時間)

Start	End
主に指導者の活動	主に児童・生徒の活動
T1 思考を促す発問	S1 一人での思考場面
T2 支援・援助等	S2 考えの発表・交流場面
T3 解説・説明・指示等	S3 一問一答
T4 板書・範読等模範	S4 音読・実演等
T5 その他	S5 その他

現在の選択肢	
T1	

(観点別 ST 分析入力画面)

- ② 「ST 分析折れ線グラフ」を描くことができる。



(ST 分析折れ線グラフ)

- ③ 選択した間隔 (10 秒, 15 秒, 20 秒, 30 秒) ごとの「ST 分析表」及び「観点別 ST 分析表」を作成することができる。

0	0:30	1:00	1:30	2:00	2:30	3:00	3:30	4:00	4:30	5:00
	T	S	S	T	S	T	S	T	S	S
1	5:30	6:00	6:30	7:00	7:30	8:00	8:30	9:00	9:30	10:00
	T	T	S	S	S	T	S	T	S	T
2	10:30	11:00	11:30	12:00	12:30	13:00	13:30	14:00	14:30	15:00
	S	T	S	S	T	S	T	T	T	S

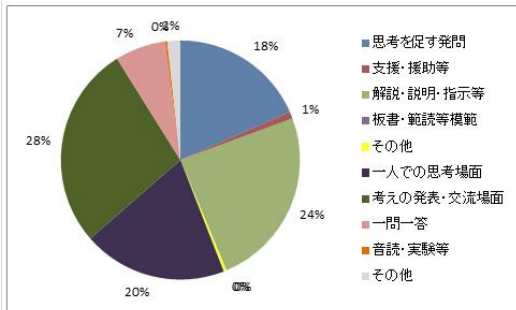
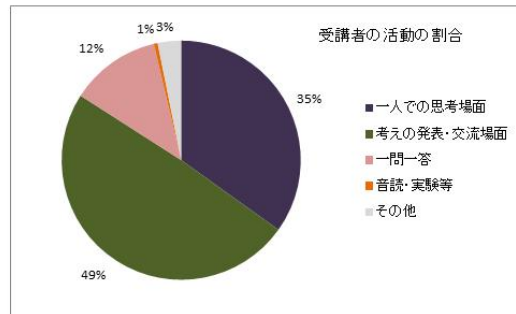
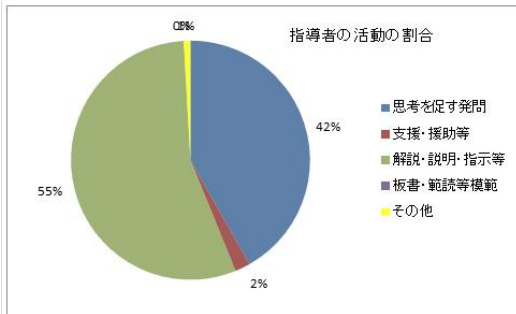
(ST 分析表)

0	T1	4		12	5		3	10			
	T2										
	T3	21	2		22	4	18	1	30		3
	T4										
	T5									12	
	S1	5	13					5			
	S2			16	3	4					
	S3					22	9	14			
	S4		7	2							
	S5		8							18	27
		T	S	S	T	S	T	S	T	S	S

(観点別 ST 分析表)

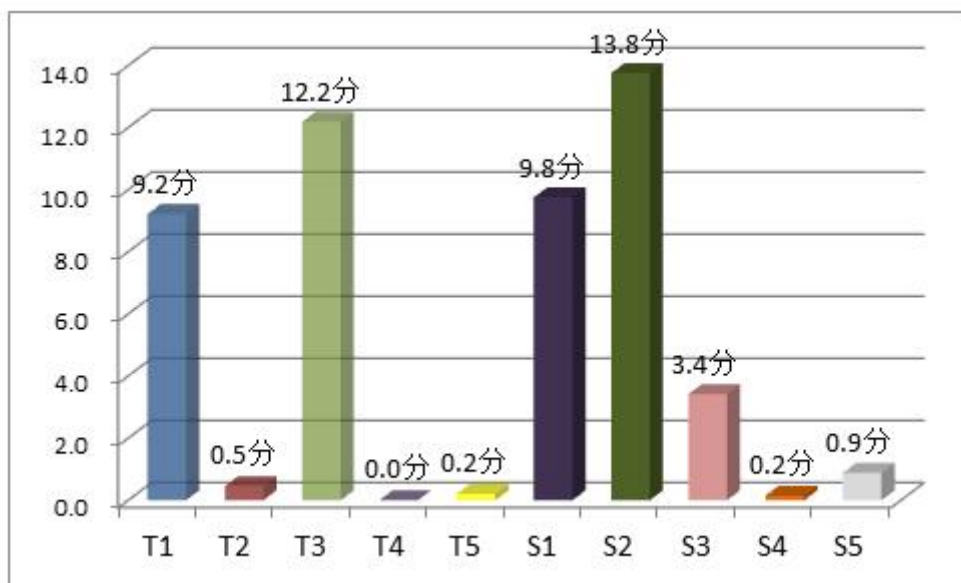
④ 「観点別の円グラフ」を描くことができる。

T1	思考を促す発問	553	9.2
T2	支援・援助等	27	0.5
T3	解説・説明・指示等	731	12.2
T4	板書・範読等模範	0	0.0
T5	その他	12	0.2
S1	一人での思考場面	585	9.8
S2	考えの発表・交流場面	825	13.8
S3	一問一答	205	3.4
S4	音読・実験等	9	0.2
S5	その他	53	0.9
		3000	50



(観点別円グラフ)

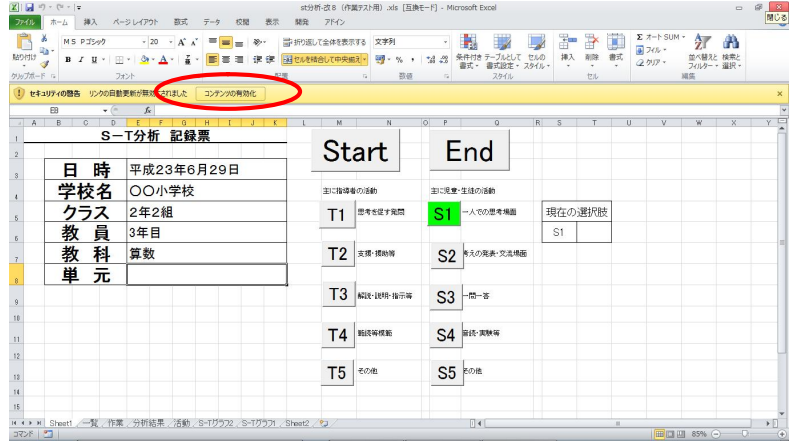
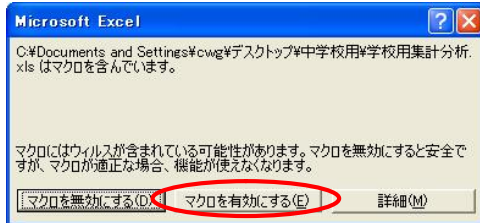
⑤ 「観点別の棒グラフ」を描くことができる。



(観点別棒グラフ)

3. マクロの設定について

※ソフト起動時にマクロ設定のメッセージが表示された場合は、「マクロを有効にする」または「コンテンツを有効化」をクリックする。

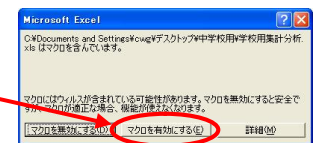
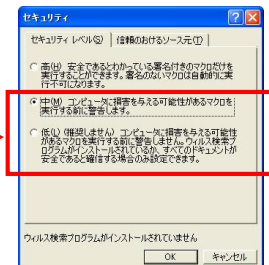


(Microsoft Excel 2000,2002 で使用する場合)

- ① ソフトが正常に起動しない場合は、マクロのセキュリティ機能が「高い」状態に設定されている可能性があるため、②～④の操作をしてから使用する。
- ② メニュー欄の「ツール」より「マクロ」→「セキュリティ」を選択し、「セキュリティ」の画面を開く。
- ③ セキュリティレベルを「中」もしくは「低」に設定し、[OK] をクリックする。
- ④ エクセルの画面を一旦閉じ、再度ソフトを起動する。

「中」に設定 … 確認画面上で「マクロを有効にする」をクリックするとソフトが起動する。

「低」に設定 … マクロが有効の状態ですソフトが起動する。
(確認画面は表示されない)



4. 観点別 ST 分析ソフトの操作について

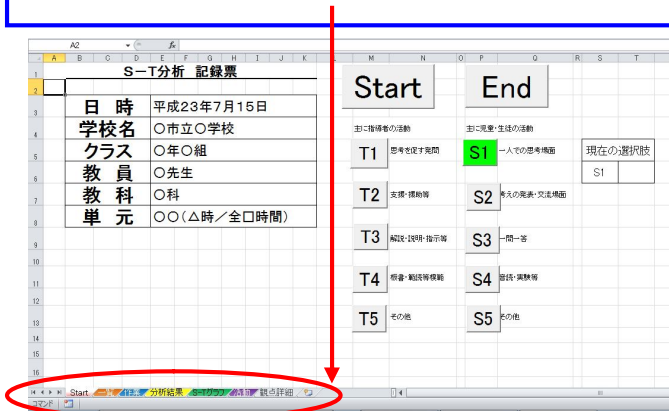
※このソフトは、必要に応じてコピーし、ファイル名を日付・学校名等必要事項に変更したのち、分析し、保存すること。

(例)「0715 センター中学校-数学」

※この ST 分析ソフトはエクセルで作成している。

ソフトを立ち上げると、画面下に、7つ（7色）のタブが表示される。

ST 分析入力は、「Start」タブ（赤色）の画面から開始する。



○分析手順と表示されるタブについて

Step-1 授業と同時並行に分析する

【作業場所】「Start」タブ



Step-2 空欄を削除する

【作業場所】「作業」タブ

【必要ボタン】「空白行削除」ボタン

【表示・確認場所】「一覧」タブ



Step-3 分析表を作成する

【作業場所】「作業」タブ

【必要ボタン】秒間隔を入力決定後「分析」ボタン

【表示場所】「分析結果」タブ（自動表示）



Step-4 分析表のSとTの同点ポイント (TS) を、SかTの判別をする

【作業場所】「分析結果」タブ

【必要ボタン】なし（手入力）

【参考にできる表】【作業】タブ内、「全画面」ボタン後観点別時間配分表表示



Step-5 分析グラフ（折れ線）を作成する

【作業場所】「作業」タブ

【必要ボタン】「S-T分析グラフ」ボタン

【表示・確認場所】「S-Tグラフ」タブ（自動表示）



Step-6 観点別分析グラフ（円グラフ）を作成する

【作業場所】「作業」タブ

【必要ボタン】「S-T分析」ボタン

～必要に応じて表示、印刷～

Step-その他 ST表のみ表示する

【作業場所】「作業」タブ

【必要ボタン】「S-T表のみ表示」ボタン

Step-その他 観点別分析表を表示する

【作業場所】「作業」タブ

【必要ボタン】「全表表示」ボタン

Step 1 授業と同時並行に分析する

① “分析対象授業のデータを入力する。

※「Start」タブページに、必要なデータを入力する。
（入力データは、一部他ページにも反映）

S-T分析 記録票		Start	End
日	平成23年7月15日		
学校名	市立〇学校		
クラス	〇年〇組		
教員	〇先生		
教科	〇科		
単元	〇〇(△時/全口時間)		
T1	思考を促す発問	S1	一人での思考場面
T2	支援・援助等	S2	考えの発表・交流場面
T3	解説・説明・指示等	S3	一問一答
T4	板書・範読等模範	S4	音読・実験等
T5	その他	S5	その他

② 「Start」ボタンを押して、分析スタート

※「Start」ボタンを押したあと、観点別のボタンを押すまでは、2つ目のタブ（茶色）の「一覧」のはじめの数秒は、空欄になる。

※「End」ボタンを押さない限り、カウントが終了しないので、授業終了時点では、必ず最後に「End」ボタンを押す。

③ 指導者、児童・生徒の行動等から観点を判断し、S1～S5、T1～T5のボタンを押していく。

※次の観点のボタンを押すまで、継続される。
また、選択した観点は、「現在の選択肢」に表示される。

Start		End
T1	思考を促す発問	S1
T2	支援・援助等	S2
T3	解説・説明・指示等	S3
T4	板書・範読等模範	S4
T5	その他	S5

現在の選択肢
S1

④ 授業が終了したら、「End」ボタンを押す。

Start		End
T1	思考を促す発問	S1
T2	支援・援助等	S2
T3	解説・説明・指示等	S3
T4	板書・範読等模範	S4

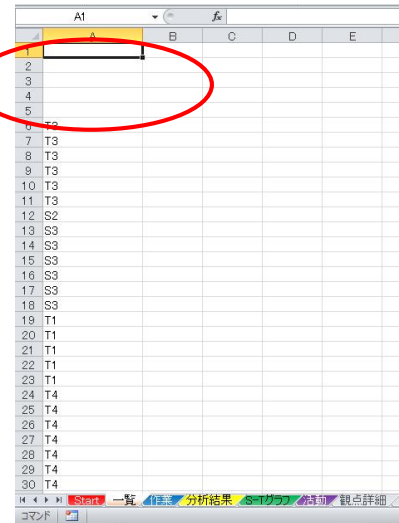
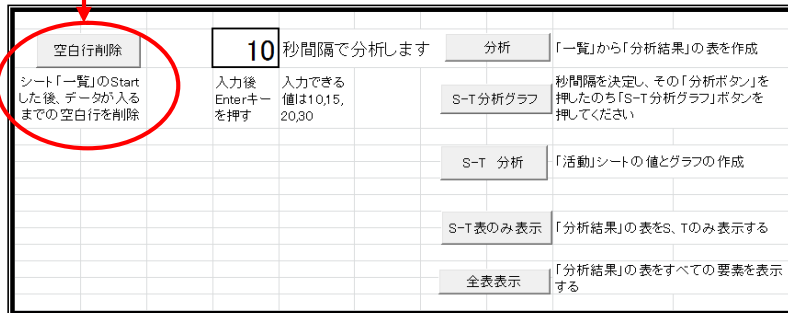
現在の選択肢
S1

Step-2 一覧表の空欄を削除する

- ① 「一覧」(茶色タブ)を開き、右図のように前半部分に空欄があるかを確認する。

※空欄がなかった場合は、Step-3へ

- ② 空欄があった場合、「作業」(青色タブ)を開き、左上「空白行削除」ボタンを押して、空欄のある行を削除する。

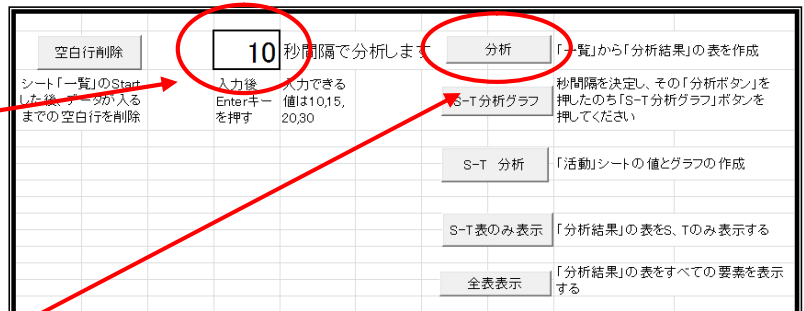


- ③ 自動的に「一覧」タブに飛ぶので、空欄が確認できたら、「作業」タブへ

Step-3 分析表を作成する

- ① 「作業」タブを開き、希望する分析間隔(10秒, 15秒, 20秒, 30秒)を入力する。

※分析間隔とは、1秒間隔で判断した各観点の中でも、SかTのどちらの観点が多いかを判断する間隔。



- ② 「分析」ボタンを押し、分析表を作成する。(分析表へは、自動でジャンプする。)

※ 以下のような表示〔希望した分析間隔の時間内で、同点(10秒内で、SもTも5秒ずつの同数になった場合等)の場合〕が出た時は、Step-4へ

G	H	I	J	K	L	M	N	O	P	Q
0:50	1:00								2:20	2:30
S	S								S	S
5:50	6:00								7:20	7:30
TS	T								S	S
10:50	11:00								12:20	12:30
T	TS								T	T
15:50	16:00								17:20	17:30
S	S								S	S
20:50	21:00	21:10	21:20	21:30	21:40	21:50	22:00	22:10	22:20	22:30
S	S	S	S	S	S	S	S	S	S	S
25:50	26:00	26:10	26:20	26:30	26:40	26:50	27:00	27:10	27:20	27:30
T	T	S	S	S	S	S	S	T	T	T
30:50	31:00	31:10	31:20	31:30	31:40	31:50	32:00	32:10	32:20	32:30

Step-4 分析表のSとTの同点ポイント(TS)を, SかTの判別をする

同点ポイント表示「TS」を表中から探し, その時間がTかSを判断し, 入力する。

※同点をSかTのどちらかを判断するには, 授業分析記録, もしくは, 「作業」(青色タブ)のページを開き, その中で観点別時間配分をもとに, 判断する。

※上記, どちらの場合でも, エクセル機能「検索と選択」を利用し, “TS”を表示してある場所を探し, 入力することもできる。

0		0:10	0:20	0:30	0:40	0:50	1:00	1:10
		T	TS	T	S	S	S	T
1		5:10	5:20	5:30	5:40	5:50	6:00	6:10
		T	T	T	T	TS	T	S
2		10:10	10:20	10:30	10:40	10:50	11:00	11:10
		S	T	S	T	T	TS	S
3		15:10	15:20	15:30	15:40	15:50	16:00	16:10
		S	S	S	S	S	S	S

(ST 分析表)

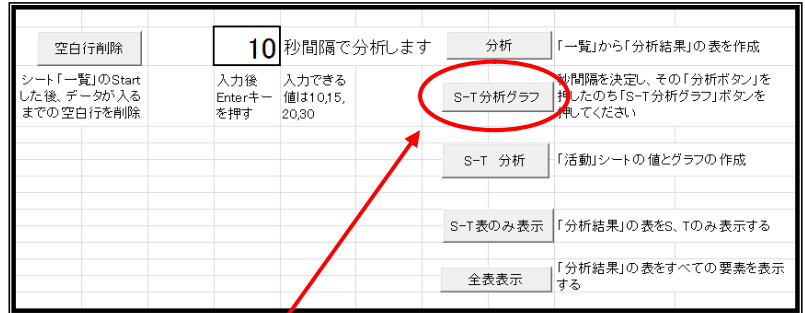
		0:10	0:20	0:30	0:40	0:50	1:00
0	T1	4					
	T2						
	T3	6	5	10	2		
	T4						
	T5						
	S1		5		8	5	
S2							
S3							
S4							7
S5						5	3
		T	TS	T	S	S	S
1	T1	5:10	5:20	5:30	5:40	5:50	6:00
	T2	5	2				
	T3	5	8	10	9	5	8
	T4						
	T5						
	S1				1	5	2
S2							
S3							
S4							
S5							
		T	T	T	T	TS	T

(観点別 ST 分析表)



		0:10	0:20	0:30	0:40	0:50	1:00
0	T1	4					
	T2						
	T3	6	5	10	2		
	T4						
	T5						
	S1		5		8	5	
S2							
S3							
S4							7
S5						5	3
		T	T	T	S	S	S
1	T1	5:10	5:20	5:30	5:40	5:50	6:00
	T2	5	2				
	T3	5	8	10	9	5	8
	T4						
	T5						
	S1				1	5	2
S2							
S3							
S4							
S5							
		T	T	T	T	T	T

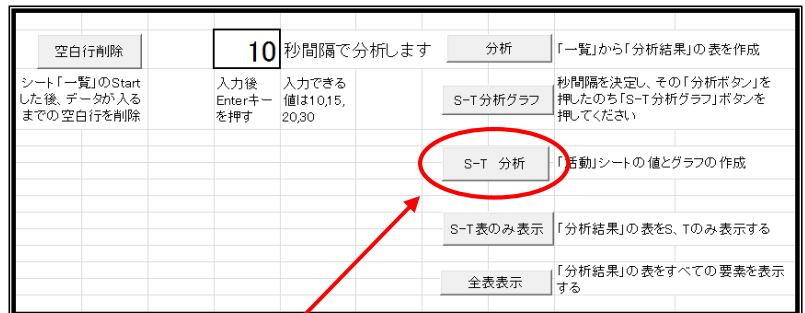
Step-5 分析グラフ（折れ線）を作成する



「作業」（青色タブ）を開き、右上から2番目の「S-T 分析グラフ」ボタンを押し、折れ線グラフを作成し、必要に応じて印刷し活用する。

※ 自動的に描かれるので、作図が終わるまでそのまま待機しておく。

Step-6 観点別分析グラフ（円グラフ、棒グラフ）を作成する



「作業」（青色タブ）を再度開き、右上から3番目の「S-T 分析」ボタンを押し、観点別グラフ（円グラフ、棒グラフ）を作成し、必要に応じて印刷等して活用する。

Step-その他 ST 表のみ表示する

「作業」（青色タブ）を再度開き、右上から4番目の「S-T 表のみ表示」ボタンを押し、必要に応じて印刷等して活用する。

Step-その他 観点別分析表を表示する

「作業」（青色タブ）を再度開き、右上から5番目の「全表表示」ボタンを押し、必要に応じて印刷等して活用する。